

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・36〉 いわき市立好間第三小学校
＜実施日＞	平成28年 7月 8日(木)
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
＜実践内容＞	1 校庭設置のモニタリングポストの数値を確認する。 ※ 常に表示してあり、児童も毎日のように目にしているが、数値を気にしたり話題に上ったりすることは全くないと言っても過言ではない。ポストを自分で確認することにより、放射線を意識させ、本時の位置付けを知らせた。 2 「環境放射線モニタ」で線量を量る。 ※ 使い方、数値が表す意味を確認し、実際に教室内、OS、窓枠、ベランダなどの放射線の測定をする。 ※ 場所によって、放射線量が増えることをつかませた。現在、校舎・校地内で放射線の数値が高く、危険な場所はない事を確認した。また、草むら等少し線量が高くなる場所があることは意識させた。 3 実際に測った数値と新聞、テレビ等で毎日発表されている数値から考えたことを発表させる。 ※ 動画、新聞等資料等を準備し、毎日放射線に関する報道がなされていることに気づかせる。また、数値も毎日少しずつ変化していること、時間や天候場所によっても変わることなどを確認させる。事故当時の数値等とも比較させ、現在は安心して過ごしてよい放射線量であることを確認した。 ※ なぜ毎日、放射線量について報道しているのか考えさせる。安全に生活していくために必要であることを気づかせる。 4 これからの生活について考える。 ※ 健康で安全な生活をこれからも送るため、モニタリングポストや放射線情報これまでより少しでも意識して生活できるとよいことを確認する。
＜成果＞	○ モニタリングポスト、新聞、テレビで毎日目にしている放射線量であるが、意識したことがない児童に、少しでも自分の生活と関わりがあることを知らせ興味・関心を持たせることができたと考える。
＜課題＞	○ 特に低学年において、恐怖心をあおらずに、放射線の人体への影響や、放射性物質の正しい知識をどう説明するかが難しいところである。
資料作成担当者職(教頭)氏名(小野 明彦)	学校電話番号(36-2205)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)